

# 大阪大学図書館報

Vol. 20, No. 4, Oct., 1986 (昭61)

## 目 次

- |  |            |
|--|------------|
| ○ Queen Mary College(ロンドン大学)とJagiellonian University(ポーランド、クラコフ)の附属図書館 | ○ 教官著作寄贈図書 |
| ○ 図書館電算機のレベルアップ<br>—ACOS450からACOS610-10へ—                              | ○ 会 議      |
| ○ 昭和61年度センター館雑誌追加収集について  | ○ 日 程      |
|  | ○ 人 事      |

## Queen Mary College (ロンドン大学) と Jagiellonian University (ポーランドクラコフ) の附属図書館

山 根 寿 己

昭和61年6月20日から2カ月間、文部省在外研究員として、ヨーロッパの大学・研究所の金属、物理、材料の研究の実態を見ると共に講演・討論の間に出来る限り附属図書館を訪問することにも努力をした。それら図書館のうち特に印象深かったQueen Mary College (University of London) とポーランドの古都CracowにあるJagiellonian Universityの2つの図書館について述べる。

この2つの図書館が印象深い理由はQueen Mary College附属図書館については1.大学の図書機能が中央図書館に完全に集中化されていること、2.機械化が行われていること、3.学生数と職員数に比べて図書館職員の数が少なく、合理化された図書館と見られること、などである。またJagiellonian Universityの附属図書館は、1.機械化が全く行われていない、2.職員数が極めて多く、大学の附属図書館の役の他にポーランド国立図書館の役も兼ね備えている、3.620年の歴史の重さを感じさせる多数の貴重本の存在、4.ある時代には集中化が行われたが、現在では附属図書館は文科系の資料に重点があり、科学・工学系については研究所、学科に資料を有し、分散態勢であり附属図書館の指揮の完全に外にある。このように両大学の図書館は全く対照的な特長を有している。

このような図書館の特長は大学の歴史と大学の組織に深くかかわり合っている。Queen Mary Collegeは芸術、工学、法律、理学、社会学の専門領域をカバーし、(5学部)学生数3,500人、教官数450人の規模である。

1902年に工業学校が、East London Collegeとなり、1915年にUniversity of Londonに編入された。この大学の附属図書館は1887年に建設され1965年に拡張工事が行われているから、

大学の設立前、即ち工業学校時代に図書館が設置され、以来、法律図書館の設置もなされている。蔵書数は260,000冊で定期刊行誌は約2000タイトル購入している。1973年ヨーロッパ共同体ECによりEuropean Documentation Centerに指定されEC内の公式印刷物を殆んど全部受入れている。この大学の図書はすべて中央管理型に集約されており、新着の定期刊行誌は館内にアルファベット順に配架されている。従って、日本でよく見られる学科図書室の存在はない。これは大学の創立以前に図書館があり、その後学部の増設が行われたが中央管理方式を一貫して守って来たことによるものと考えられる。さらに業務は機械化されているがCAS on Lineとの接続はない。これだけの図書業務をまかなう中央図書館の人員は僅か14名であり、莫大な業務をこれだけの人員で処理出来ているものと感心させられる。

一方、Jagiellonian Universityの附属図書館は全く異っている。Queen Mary Collegeが工業学校時代を入れて約100年の歴史に対しJagiellonian Universityは、1364年にCasimir大王によりCracow Universityとして設置され、図書館も同時に設けられた。従ってJagiellonian図書館は、622年の長い歴史を有している。1400年にLadislas Jagiello王により大学が再興された時（当時大学の名称はCracow Academy）図書館は学生の宿舎、学校に設置され中央集中型でなく分散型であった。1470年に初めて印刷本が寄附された。この図書館の本は殆ど寄附と、1559年に設けられたBenedykt of Zozminの基金により購入された。1777年にCracow Academyの組織を変更した時に分校、宿舎に分散していた図書館を共通図書館として集合させ、19世紀後半に国立図書館となり現在に至っている。

蔵書数は約130万卷と言われており、宗教、文化、歴史、文学に関する書籍が大部分を占めている。このように古い図書館であるため貴重本（歴史的に意義のある本）を収めた部屋があり、係員が入口で番をしている。その中の1つの本の表紙を写真に示す。これはJagiellon家のAnne女王により1582年にCracow Academyに寄附された本で、ポーランドのわしと1582年と女王のイニシャルが金と真珠とビーズで刺繍されている。

この図書館の職員は約286名でその数の多さは先述のQueen Mary Collegeと比べると驚きである。図書業務の機械化は全くなされていない。

目録は1949年まではアルファベット順に並べられており、1950年以降は本のサイズによりアルファベット順に並べられている。従って本の分類はしていない。

このように私の目から見ると図書館体系をなしておらず、古い本を集めるだけの博物館の役目しか負っていないように見えるのであるが案内の説明には、「今日ではポーランドの文化、歴史、文学の研究の源となっている」とあり、これもまた事実なのである。（やまねとしみ 工学部教授 吹田分館長）



## 図書館電算機のレベルアップ — ACOS 450から ACOS 610-10へ —

すでに報告したとおり、図書管理システムで残されていた発注システムについても昭和61年4月に完成し、いわゆる第一期の計画を完了した。眼目の目録システムを除く、ハウスキーピングにかんするほとんどすべての業務の電算化を終え、それぞれのシステムについて整備再検討していく段階となっている。

一方で、学術情報センターの進捗状況や開発業者の対応などにあわせながら、目録システムについて検討してきたが、第二期としてこれの開発に着手することとなった。

阪大の全図書館室のトータルシステムの実現により、旧ハード構成ではディスク容量、主記憶容量、処理速度それぞれについて限界にきており、今後実現していく目録システムのことを考慮に入れて、ハード構成のレベルアップをおこなった。

このような理由から、今回のレベルアップはホストマシンとその周辺の整備を重点とした。また同時に、目録システムへの対応として目録専用端末を設置した。

この目録専用端末は、当初ハウスキーピング用のS150系で実現する予定であったが、ハードの問題でこれとは別の系列のターミナルコントローラーで実現することとなった。目録専用端末は、日電としてはこのたびはじめて実現することになる。

阪大は、もちろん、これまでも旧システムで目録入力 of 教育練習に励んできたが、本来の目的である目録業務がここにいたってやっと本格稼働となるのである。

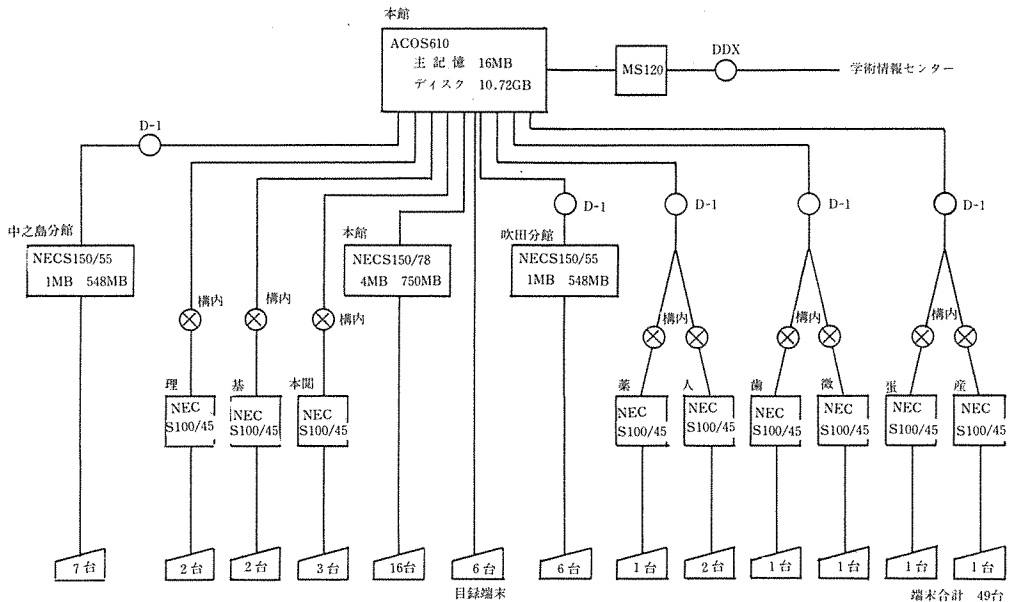
レベルアップのもうひとつの特徴であるホストマシンとその周辺の整備とは、つぎのような内容である。

- ACOS 450をACOS 610-10としたことで、約二倍の性能となった。
- ACOSの主記憶容量を6MBから16MBにした。
- 磁気ディスク装置の総容量を7.6GBから10.72GBへアップした。この装置は占有面積の小さい最新のものを採用した。
- 磁気ディスクコントローラーを2台とし、ディスクI/O時間の短縮をはかった。
- MT装置を3台とし、MTベースのデータ処理を効率的に運用できるようにした。
- 一部の分室との通信回線速度を4倍とし、分室での業務処理能力の向上をみた。
- 本館のローカル処理機を新シリーズとし、主記憶を4MB、ディスク容量を750MBとした。また、端末も若干増やした。

今回のレベルアップでは、その関連事業として電算機室の拡張工事をおこなった。昭和58年1月のACOSシステム稼働時に比べて約1.5倍の機器構成となり、従来の電算機室では手狭であったのをこの機会に改善したものである。隣り合わせの一室を電算機室に改造し、ドアで連結した。その新電算機室へは人間の出入りをなくし、そこへCPUやディスク等をいれ、オペレーション空間と電算機の主要部分とを隔絶した。

以上が今回のレベルアップの概要である。新しい機器構成図はつぎのとおりである。

(学術情報掛)



## 昭和61年度センター館雑誌の追加収集について

中之島分館は、昭和52（1977）年度に医学・生物学系の拠点図書館に指定されて以来、本年度10年目をむかえる。文部省から予算配分を受けて、現在医学、生物学分野の一次資料収集のセンター館として、大学経費購入分を合わせて5,000誌を越える外国雑誌の収集、保存に力を注ぐとともに、学内・学外の利用者に対する資料提供に努めている。

さて、本年度は自然科学系外国雑誌センター第2期計画分として、当館へは1,000万円を超える増額配分があった。相当な増額であることと、発注および納入時期との関連で、図書館として緊急に雑誌の追加選定作業に取り掛ける必要に迫られた。6月上旬、各掛から関係者が集まり、選定作業の進め方について協議を重ねた。そして選定に当たっての基本方針は次のとおり決めた。(1)医学、歯学、薬学の基本主題のほか、その周辺領域についても配慮して国内未収集誌、創刊誌を選定する。(2)Index Medicus, Excerpta Medica, Current Contents, BIOSISの収載誌で、国内にないものを選ぶ。(3)日本医学図書館協会が加盟館に対して行った雑誌の調査結果（①海外機関へ複写依頼したもの ②新規購入の希望はあるが、購入していないもの ③継続購入を中止したもの）を選定対象とする。(4)他の国立大学医学図書館および学内関連部局の研究者から購入希望のあるものについては考慮する。

早速、各種創刊誌情報と上述の資料等を用いて、作業を開始することになった。

日常業務に追われながら、担当者達は懸命に選定作業を続けた。そして7月末までに、レビュー誌、モノグラフを含む外国雑誌823誌を選び出して、リストを作成した。

選定作業の過程で、出版社等書誌事項の明確なものを選び、入手が難しいと分かったものは除外した。その後、サブセンター館である東北大学、九州大学との重複調整、さらに理工

学系センター館、農学系センター館との分担調整という綿密な処理を経て、最終的に中之島分館として752誌を追加収集することになった。

10月初め、外国雑誌752誌を追加発注に伴ういくつかの条件付きで、書店に発注した。

以上のことが、選定準備から発注に至るまでの概要である。

一方、8月4日東京大学附属図書館において開催された、自然科学系外国雑誌センター館打合せ会で、今回の大幅なタイトル増加を機会に、「外国雑誌センター館現行受入雑誌目録1986年版」を発行することが了承された。

今回は、人文・社会科学系センター館を含む各センター館から磁気テープ(MT)によりデータを提出していただき、大阪大学の担当で編集作業をすることになった。

現在、昭和62年3月刊行を目途に作業を進めているところである。

## 教官著作寄贈図書

### 一本館

あいさか まどろ  
合阪 學 (文・教授)

ギリシャ・ボリスの国家理念

(創文社 昭61)

藤田広志 (工・教授)

In situ experiments: with high voltage  
electron microscopes.

(Research Center for Ultra-High  
Voltage Electron Microscopy,  
Osaka Univ., 1986)

加賀山 茂 (教・講師)

法律エキスパートシステムの基礎

(ぎょうせい 昭61)

### 一吹田分館

小松定夫 (工・名誉教授)

構造解析学 III

一弾性連続体の解析一

(丸善 昭61)

上田 篤 (工・教授)

水辺と都市

一カラッポの復権一

(学芸出版社 昭61)

室田 明 (工・教授)

河川工学

(技報堂出版 昭61)

### 一理学部図書室一

小田雅司 (理・教授)

Carbocyclische  $\pi$ -Elektronen-Systeme  
/ bearb. von T.Asao, M.Oda...

(Methoden der organische chemie  
Bd.5, Teil 2c)

(Georg Thieme, Verlag, 1985)

## ■■■■■■■■■■ 会 議 ■■■■■■■■■■

### ——中之島分館運営委員会——

61.7.30(水) 15:30~17:00(中之島分館会議室)

報告事項 1. 前回以降の主要行事 2. 中之島分館・分室の概況 3. 昭和60年度マイクロフィルム撮影等経費決算報告について報告があった。

在議事項 1. 昭和61年度中之島分館資料費部局分担額 2. 昭和61年度中之島分館製本費の配分について協議の結果、原案通り承認された。 3. 次期分館長の選考については、62年2月中に運営委員会を開催し、協議することとなった。

### ——附属図書館吹田地区運営委員会——

61.9.16(火) 16:30~17:15(吹田分館会議室)

報告事項 1. 吹田分館増築建物の進捗状況と外壁タイルが茶系色に決定したこと 2. 吹田分館予算と学生図書選定について 3. 図書館業務電算機の更新について 4. 貸出統計等について説明と報告があった。

協議事項 1. 図書館運営費の配分について協議の結果、原案どおり了承された。 2. 図書選定小委員会等の組織変更について、検討を進めることになった。 3. 増築後の吹田分館の有効利用について協議された。

### ——分館長会議——

61.10.29(水) 15:00~17:30(本館・館長室)

報告事項 1. 主要行事について

協議事項 1. 大阪大学の2キャンパス体制の整備に伴う図書館の組織・機能について

大阪大学附属図書館体系検討小委員会への継続審議事項に関連して、「附属図書館における施設整備長期計画要綱」が協議され、組織・機能について具体的に検討する時期にきた。中之島分館について、

医学部・医学部病院の吹田地区移転計画は着々具体化され、中之島分館についても生物系図書館ワーキンググループ等において検討をかきねている。ここにおいて図書館全体の将来構想の上に立った、吹田と豊中の2キャンパス体制となることを考慮した一つの案として、「分館制の存続」、「基幹図書館構想について」等が提起され、資料に基づいて説明があり、協議された。

結局、11月に開催される「体系検討小委員会」に協議がうつされ審議することとなった。 2. 次期図書館長の選考について、7月開催の図書館委員会において協議された次期図書館長の選考スケジュールについて、事務部長から説明があり確認された。

## ■■■■■■■■■■ 日 程 ■■■■■■■■■■

- |                                |         |
|--------------------------------|---------|
| 61.7.1 日本医学図書館協会理事会(昭和61年度第3回) | (日本学会館) |
| 61.7.11 分館長会議                  | (本館)    |

- 61. 7. 18 図書館委員会 (本館)
- 61. 7. 30 生物系図書館ワーキング・グループ第11回会合 (中之島分館)
- 〃    第71回中之島分館運営委員会 (中之島分館)
- 61. 8. 6 中之島分館図書選定小委員会 (昭和61年度第1回) (中之島分館)
- 61. 8. 19 学術情報ネットワーク打ち合せ (事務局)
- 61. 8. 23 学術情報システム特別委員会 (学士会館)
- 61. 8. 25 第52回国際図書館連盟東京大会 (青山学院大学)
- 61. 9. 16 吹田地区運営委員会 (吹田分館)
- 61. 9. 16 吹田分館選定小委員会 (吹田分館)
- 61. 9. 19 生物系ワーキング・グループ第12回会合 (薬学部)
- 61. 9. 26 第22回大学図書館国際連絡委員会総会 (東京大学)
- 61. 10. 16 日本医学図書館協会理事会 (昭和61年度第4回) (順天堂大学)
- 〃    評議会 (昭和61年度第3回)
- 61. 10. 21 第20回国公立大学図書館協力委員会 (神戸市外国語大学)
- 61. 10. 23 昭和62年度外国雑誌レート交渉 (本館)
- 〃    第19回国立大学附属図書館部課長会議 (三井アーバンホテル福岡)
- 61. 10. 24 第60次国立7大学附属図書館協議会 (三井アーバンホテル福岡)
- 〃    中之島分館図書選定小委員会 (中之島分館)
- 61. 10. 29 分館長会議 (本館)

人事

異動前の所属・職名	氏名	異動内容	発令年月日
		(採用)	
	渡辺 典子	事務補佐員吹田分館受入掛	61. 8. 1
	矢野 幸子	事務補佐員吹田分館受入掛	61. 10. 1
	小川 敦子	事務補佐員医学情報課運用掛	61. 11. 1
		(配置換)	
吹田分館運用掛文部事務官	松原美重子	工学部文部事務官	61. 8. 1
		(辞職)	
吹田分館受入掛事務補佐員	小林 由佳		61. 8. 1
吹田分館受入掛事務補佐員	渡辺 典子		61. 8. 31
医学情報課運用掛事務補佐員	森川 順子		61. 10. 16

大阪大学図書館報 Vol.20. No.4 通巻86号 昭和61年12月1日発行  
 発行所 大阪大学附属図書館 〒560 豊中市待兼山町1の1 ☎ 06(844)1151 内線2355